

2017年7月7日

糸島市・九州大学・住友理工 3者協定成果報告会

～ふれあいラボ開所 1年を振り返って～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長：松井徹）は、糸島市（福岡県）および国立大学法人九州大学との3者による連携協定に基づき、昨春開所した「九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）」の活動を総括する「第1回 3者協定成果報告会」を6月29日（木）に開きましたので、お知らせいたします。



冒頭、それぞれあいさつを述べる（左から）
当社会長 西村、若山理事・副学長、月形市長



これまでの活動を順番に報告する登壇者

糸島市、九州大学、住友理工の3者は2015年12月、「健康」「医療」「介護」事業における連携協定を締結。これに基づいて、九州大学が昨春、糸島市の公共施設内に、市民に開放されたオープンラボとしてふれあいラボを開設しました。地域包括ケアシステムの構築を目指し、市民の皆さまのご協力を得ながら、九州大学と住友理工が実証研究を行ったり、研究・開発中の製品の実用化を促進したりするものです。

報告会には3者の関係者のほか、実証研究に協力いただいた企業・団体や市民の皆さま、学生ら約140名が参加し、3者の代表者が冒頭、それぞれあいさつ。糸島市の月形祐二市長は「ラボの開設から1年間で、糸島市内外から約1,200名にお越しいただき、健康・医療・介護の実用化の拠点として認知をいただいた。本日の発表が実用化へ向けた大きな一歩になると期待している」と話し、九州大

学の若山正人理事・副学長は「糸島地域包括ケアシステムの構築に向け3者が連携して活動する中で、糸島市などをフィールドとする実証実験を重ね、すでに床ずれ防止マットレスが上市（発売）される運びとなったことは大変喜ばしい。このような取り組みが糸島市を出発点として全国に、そして国際的にも展開されていくことを望む」と述べました。また、当社代表取締役 取締役会長 西村義明は「この糸島の地を“母”として、今後も健康介護分野のさまざまな製品を開発することによって、日本、そして世界の高齢化社会に向けての対応を進めていきたい」と意気込みを語りました。

続いて、3者協定の枠組みやふれあいラボを通じて、この1年間に取り組んだ成果について、各代表者が報告。九州大学工学研究院の山本元司教授は当社と共同研究を続けている歩行アシストスーツについて紹介しました。また、糸島市や九州大学より、今後のフレイル（高齢者の虚弱）予防に関する計画について報告がありました。

当社は今後も、糸島市および九州大学との3者による連携協定に基づき、ふれあいラボを軸としたさまざまな活動を通じて、日本だけでなく、世界の社会課題解決に向けた取り組みを推進させてまいります。

<ふれあいラボの概要>

九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）

所在地 : 〒819-1312
福岡県糸島市志摩初1番地（糸島市健康福祉センターふれあい内）

開所時間 : 午前10時～午後4時

休館日 : 日曜日・月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日も休館）

ホームページ : <http://www.fureai-labo.jp/>

電話 : 092-327-8181

FAX : 092-327-1560

以 上

----- 住友理工について -----

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の製造音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、エレクトロニクス、インフラ、住環境・健康介護の各分野でも事業を展開しています。23ヶ国106拠点に広がるグローバルネットワークを活用して、世界中の人々に安全・安心・快適を提供する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報部 / 〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋

tel 052-571-0259 e-mail kouhou@jp.sumitomoriko.com <http://www.sumitomoriko.co.jp/>